

修身初訓

一

T1A1  
22  
Mi77b

修身初訓卷之一

緒言

此卷ヲ初等第二年前期ニ  
學ヲ所トス首章ニ立教ニ  
章ニ幼儀三章ニ衣服四章  
ニ飲食五章ニ孝友六章ニ

接物七章ニ學問ヲ以テ終  
ル是修身ノ初步タリ輕忽  
ニス可ラス

編者誌

修身初訓卷之一

宮本茂任編輯

宗 盛年校閱

首章

○天祖穀を植ゑ給ひて飲

食の基興る 本千古事記

飲食を必慎節する 張思叔座右銘

○天祖蠶を採り給ひて衣

服の業起る 本千古事記

衣帶ハ必飭へよ 管子

○天祖新嘗を行ひ給ひて

孝敬の道立つ 本千古事記

人の子と爲てハ孝小や

はる 大學

人の臣と爲てハ敬小と

ある 同上

○其本を思ひ其恩を酬む

る者ハ臣  
子トテ  
志を立つ  
る第一義  
なり  
告志篇



## 第二章

○凡そ子弟早小起まり晏く  
眠るを要ハ  
童蒙須知

○孔子曰く善を見てハ及  
ハざるヲ如クす

○惡を見てハ農夫の務て

仙傳 卷之一 通鑑書

艸を去るゝ如く左傳

○言ハ必信すべし苟且

あも詐る魚から大和俗訓

○行歩趨踰ハ端正すべし

一疾走跳躑可ら童蒙須知

○凡そ喧闘争の處近く

づから同上

○小兒の遊ひ道ふ害な

をおさく難し唯後ふ捨ら

さる遊ひを任せかたし童子訓

○凡そ奇險ふ近くべか

らば童蒙須知

修身切訓 卷之一 車産書要

○猫犬な  
と苦むる  
も不仁を  
長び家道訓  
○凡そ火  
小向を



迫り近くなかれ、唯舉止佳  
らざるのみあらば、あつ衣  
服を焚焚き、童蒙須知を防く  
○凡そ道路ふて長者小遇  
も、必正立して手を拱し、  
疾趨して揖せよ。同上

○凡そ夜卧する小必枕を用  
ぬ、寝衣を以て首を覆ふ  
かれ、同上

### 第三章

孔子、紅紫を以て褻服とせ  
ば、論語

○大志を、紅紫なや、治容な  
るを著るべからば、童子訓

○衣服の模様めて、人の心  
を推料らる者なり、心を  
用ぬよ、同上

○凡そ衣服を著る小必



仙道秘言 卷之二 文章書林

先づ衿領を提整し、兩袵紐

帶を結べ、童蒙須知

○飲食ある小照管して汚

壊せしむるなかれ、同上

○路を行く小看顧して泥

小漬けしむるなかき、同上

○凡そ日中著る所の衣服、

夜卧る小必更むれハ、蚤虱

を藏さば即敝壊せむ、同上

○晏子一狐裘三十年、意儉

を以て俗を化ある小在り

と雖、亦其愛惜道あるなり、

修身の訓 卷之二 文章書林

同上

# 第四章

孟子曰く、飲食の人々、則人  
之を賤む。

○飯を搏まなきて、放飯す  
るなかれ、流豕を食なすな  
かれ。

曲礼

○啗食まななかれ、骨を齧  
むなからず、魚肉を反ひあ  
れ、狗小骨を投與るなかれ、  
獲るを固くするなかれ。

同上

○凡飲食あれハ則之を食

一 無れハ則思索あべから  
に但粥飯を飢に充てく闕  
くべからば童蒙須知

○ 凡そ飲食の物多少美惡  
を争ひ較ぶなから同上

○ 酒を狂藥ふして佳味は

非を能謹厚の性を移して

て凶險の類となに范質詩

○ 酒を好む人必血氣を

破る脾胃を傷ふ童子訓

○ 生をきつきて酒を好むと

も、日かき時より慎て多く

飲むべからず、同上

第五章

孔子曰く、夫孝と徳の本あり、

○父母に對しては色を和け氣を下し、温和を主とし

て事ふべし、家道訓

○父命して呼べば唯して諾せず、手小業を執るば則之を投げ、食口み阿れば則之を吐く、禮記

○凡そ人の子たる禮冬温

ふーて夏を清くー昏ハ定  
めて晨を省る、曲禮

○出れハ必告け、反れハ必  
面に、同上

○父母小事ふるよ、愛敬二  
の心法阿王、初學訓

○愛のこ少て敬をけれむ、  
犬馬を養ふも同一、同上

○敬すまて愛もくなけれ  
む、父母の心樂もべ、同上

○兄弟も同胞の親、父母ふ  
つぎたる天倫なり、初學訓

○斯千の詩云く兄及ひ  
弟式相好し相猶するあか  
れ

○兄を弟に愛ふかく弟惡  
くとも似せて愛を薄くす  
べからば、初學訓

○弟ハ兄  
に敬あつ  
く兄惡く  
やも似せ  
て不敬あ  
るべから



ば、同上

○父兄長上、教督する所あらざる、但首を低れ聴愛すべし、妄小自議論あるべからず、童蒙須知

## 第六章

孟子曰く、仁者、人を愛する者なり、人を敬ふ者なり、人恒之を愛する者、人恒之を敬ふ者なり、人恒之を敬ふ者、人恒之を愛する者なり、○凡そ愛敬を行ふは、信

を本とすべし 大和俗訓

○信とも愛敬を行ふ心真

實ふりて偽なきなり 同上

○満を損を招き謙ハ益を

受く 易

○人道を盈るを惡て謙る

を好む 同上

○已を持つゝ一敬字を得

物小接るゝ一謙字を得敬

以て已を持ち謙以て人小

接をば以て過なかるべし

薛文清



孔子曰く已小如可也  
 者を友とするなかれ  
 善人を見て之を效ひ不  
 善人を見て之を改む善と  
 不善と皆吾師なり 傳家室  
 凡衆坐ふハ必身を歛め

廣く坐  
 席を占る  
 なかれ 童蒙須知  
 人と毀  
 走ハ人亦  
 我を謗る



冬  
 参  
 身  
 力  
 刀  
 川  
 卷  
 一  
 十五  
 東  
 洋  
 書  
 局

天よ向ひて唾くゝ如

大和俗訓

### 第七章

○宇多帝のたまりく治を  
有識ふ訪ひ道を六経も  
とめよ御遺誠

○玉琢されハ器と成らす人

學むされバ道を知らば學記

○凡そ學の道師を嚴ふす  
るを難とバ師嚴みて道

尊同上

○凡そ人三の好ありて輕  
重あり富貴を好むより長

生を好む、長生を好むより  
義理を好む、初學訓

○書を讀めば、古の聖賢の  
面り其教へを聞くが如く、  
同上

○凡そ書を讀むハ机按を

整頓し、潔淨端正ならむ  
べし、童蒙須知

○書冊を將て整齊頓放し、  
身體を正うし、書冊の對し、  
詳緩ふ字を看て、子細分明  
ふ之を讀め、同上

○凡そ書冊を愛護を要すべし損汚縹摺すべからず  
同上

○濟陽江祿書を讀み未だ  
竟らざるを急遽阿るに雖  
必掩束整齊を待て然て後

起つ

○凡そ文字を言を寫して  
言語を代へ用ゐ行事を示  
し當世に施し後代に傳る  
證迹なり、童子訓

○文字を只平正にして讀

み易きを宗とに、同上

○凡そ文字を寫すふ、高く  
墨錠を取り、端正研磨し、墨  
汁を手を汚さぬるなか

れ、童蒙須知

○凡そ字を寫さば、寫し得

て工拙如何を問ひ、且一筆  
一畫、嚴正分明を要せよ、老  
艸すべからば、同上

○凡そ文字を寫さば、子細  
ふ本を看て、差誤あるべから  
ず、同上

○管丞相  
十一歳の  
詩は月耀  
如晴雪梅  
花似照星  
と作きり



勤學の力想ふべし

修身初訓卷一終

明治十五年三月廿四日版權免許  
同 年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

同 縣士族 宗盛 年

同縣同區地行八番町  
二千五十番地

出版所 連壁書樓 製本會社

同縣同區下名島町  
十五番地